

事業報告書

事務局経営戦略課

1 法人の管理運営事業

定例評議員会を1回（6月26日）、定例理事会を2回（6月7日・3月19日）のほか、臨時理事会を2回（6月26日・8月21日）開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行った。また指定管理期間が満了となった市民プラザについては、新たな指定管理期間（平成31年度～令和5年度）における指定管理者として、市から指定を受けた。

また、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

2 研修事業

職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

全職員研修、接遇マナー研修、特別研修（法規研修）などを実施した。

研修回数	15回	職員参加者数	延べ	175人
------	-----	--------	----	------

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、影山医師に産業医として委嘱、産業医による健康相談を各施設で合計6回実施した。

4 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

（1）協会機関誌「まなぶんか」の発行

1市2町（宮崎市・綾町・国富町）に向け、科学や歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機関誌を年4回発刊し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町の幼稚園・保育園・宮崎銀行各支店・小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、季刊で各6,000部（年4回）

（2）公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民の意見を傾聴し、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。11月と3月に意見交換会を実施し、各種事業や各施設の改善点等を報告した。

意見交換会	2回	モニター人数	19人
-------	----	--------	-----

(3) 子どものための音楽会の開催

様々なジャンルの音楽の生の演奏や音色に触れ、乳幼児の情操を育むため、演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

実施回数 6回 参加者数 延べ 784人

(4) 1日子ども館長の実施

子どもたちが「1日子ども館長」として「職」を体験をすることで、「働く」という意識や当協会が広く啓発する科学・自然・歴史・文化に興味関心をもつとともに、将来の職業意識を醸成するため、当協会が管理運営する各施設において、科学・歴史・芸術文化分野の体験活動を実施した。

実施回数 4回 参加者数 19人

(5) 教育施設としての施設利用推進事業

教育施設としての重要性を認識いただくため、1市2町の小中学校の私設校長会や教務主任会に直接出向き、「学校利用ガイドブック」と「施設利用ガイドポスター」を配布・説明し、施設利用推進を図った。

実施回数 5回 配布学校数 181校

(6) 学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

1市2町の学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、指定管理する施設の発展や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、その費用の一部又は全部を補助した。

また、平成31年2月19日（火）に研究事業成果発表会を開催し、応募研究の中から優秀研究を選出し、研究事業表彰式を実施した。なお最優秀賞の研究については、全職員研修でも発表した。

研究本数 7本 研究者数 9人

宮崎科学技術館

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成30年度においても展示室、パソコン研修及びプラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	304日	プラネタリウム投映日数	250日
入館者数	151,493人	利用者数	59,459人
1日平均入場者数	498人	1日平均利用者数	238人

※台風による臨時休館 1日間

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	76,609人（50.6%）
大人	74,884人（49.4%）
合計	151,493人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	129,680人（85.6%）
団体	21,813人（14.4%）
合計	151,493人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	5,201人（40.1%）
小学校	5,454人（42%）
中学校	618人（4.8%）
高等学校	338人（2.6%）
一般（参考）	1,363人（10.5%）
合計	12,974人

・広域圏外

幼稚園・保育所	1,220人（15.8%）
小学校	4,802人（62.2%）
中学校	298人（3.9%）
高等学校	39人（0.5%）
一般（参考）	1,361人（17.6%）
合計	7,720人

④ 県外団体利用内訳

幼稚園・保育所	59 人 (5.3%)
小学校	230 人 (20.6%)
中学校	26 人 (2.3%)
一般 (参考)	804 人 (71.8%)
合 計	1,119 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	27	1,012	90.5
四国	0	0	0.0
中国	1	43	3.8
関西	1	64	5.7
中部	0	0	0.0
関東	0	0	0.0
東北	0	0	0.0
北海道	0	0	0.0
台湾	0	0	0.0
合計	29	1,119	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	31	3.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	1	35	3.5
熊本	5	197	19.5
大分	3	67	6.6
鹿児島	17	682	67.4
沖縄	0	0	0.0
合計	27	1,012	100.0

2 常設展示事業

アポロ 11 号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物のほか、先端科学技術を集約した展示物は約 100 点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気づくことに努め、科学に対する興味・関心を深めさせることができた。

特に、経年劣化が見られる展示物については、コストを抑えつつ修繕を行うなど、最大限の維持と活用に努めた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学の芽」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、JSCや宮崎大学のボランティア学生とともに実施した。

① チャレンジサイエンス	実施回数	29回	参加者数	延べ	5,186人
② ダ・ヴィンチ工房	実施回数	6回	参加者数	延べ	118人
③ 生きがい科学館	実施回数	8回	参加者数	延べ	44人
④ 不思議なサイエンスショー	実施回数	10回	参加者数	延べ	935人
⑤ 宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	20回	参加者数	延べ	575人
⑥ どろだんご教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	142人
⑦ 科学技術週間工作教室	実施回数	10回	参加者数	延べ	127人
⑧ 自由研究サポート教室	実施回数	1回	参加者数	延べ	3人
⑨ なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	20回	参加者数	延べ	1,720人

⑩ コスモランド教室	実施回数	0回	プラネタリウム機器更新に伴う中止	
⑪ サイエンス親子学習教室	実施回数	2回	参加者数 延べ	74人

(2) パソコン講座

子ども達がパソコンに対する興味・関心を高めることを目的とした講座を実施した。

すいすいパソコン	実施回数	26回	参加者数 延べ	1356人
----------	------	-----	---------	-------

(3) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生、中学生向けの学習プログラムを行った。大変多くの応募があり、事後の感想も好評であった。夏休みの自由研究の題材として月の記録方法なども解説をした。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数 延べ	447人
	小学6年生対象	2回	参加者数 延べ	240人
	中学生対象	1回	参加者数 延べ	55人

4 プラネタリウム事業

九州最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。平成31年1月7日から3月12日にプラネタリウムコンソール機器の更新を行い、より鮮明で迫力ある映像を安定した動作で投映できるようになり、更なるサービスの向上に努めた。

入場者数 延べ	53,838人（※通常投映番組のみの観覧者）
投映回数	845回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組
 - 「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」
 - 「今夜銀河の片隅で」「DARK」「Back To The Moon」「宇宙への旅」
 - 「宇宙のエネルギー」「ピーターパン」
- ・29年度から引き続き投映した番組
 - 「ドラえもん宇宙大探検3」「妖怪ウォッチ」「ちびまる子ちゃん」
 - 「ノーマン・ザ・スノーマン」「こぐま座のティオ」
- ・30年度から投映した新番組
 - 「ポケットモンスター サン&ムーン」「名探偵コナン」「忍たま乱太郎の宇宙大冒険」
 - 「しまじろうとおたんじょうびのおほしさま」「ノーマン・ザ・スノーマン2」

(2) 学習番組

- 「ピーターパンとほしのくにへいこう」（幼児向け）
- 「スタジオ444」（小学4年生向け）「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」（小学6年生向け）
- 「この空に願いを込めて…」（中学生向け）

(3) 自主製作番組

「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらうよう努めた。

実施回数 11回 参加者数 延べ 660人

(5) 中秋の名月大観望会

宮崎科学技術館に隣接する中央公園広場で星空の観望会を計画したが、雨天により中止した。

(6) おはよう月の観望会

夏休み期間中に、午前中に見える日中の月を望遠鏡で観望した。日中の青空の中に見える白い月に、子ども達が驚く様子が見られた。

実施回数 1回 参加者数 延べ 65人

(7) スターウォッチング教室

宮崎市、綾町、国富町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもっていただくように努めた。

実施回数 5回 参加者数 延べ 421人

(8) スターウォッチング教室 in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地（橘通3丁目交差点 MRTテラススタジオ前広場やカーリーノ宮崎前）で観望会を実施した。多くの市民や高校生が月や星の輝きの美しさを堪能でき、天文へ興味をもっていただいた。

実施回数 2回 参加者数 延べ 1,150人

(9) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 6回 参加者数 延べ 1,102人

(10) 特別投映

神武大祭に合わせて、特別投映を行った。当館の自主制作番組「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」を投映し、合わせて天文と日向神話の親和性について職員が準備した映像等で解説を行った。

開催期日 平成30年10月27日（土）

入場者数 37人

(11) 部分日食観望会

宇宙・天文への興味関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として「部分日食」の観望会を行った。

開催期日 平成31年 1月 6日(日)

入場者数 子ども110人 大人90人 計 200人

(12) 星空継続観察事業「みやざき星空大調査」

環境省の推進する星空継続観察事業の一環として、星空観察を通じて光害(ひかりがい)や大気汚染等に気づき、環境保全の重要性について関心を深めていただくこと、良好な大気環境や美しい星空を地域資源(観光や教育)としても活用していただくことを目的に観察会を行った。

開催期日 平成31年 2月 1日(金)

入場者数 子ども 3人 大人 6人 計 9人

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家の活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで開催した。音楽の生演奏と星の解説、そしてCD音楽の解説という3部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 279人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでもらおうと、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人に楽しんでもらった。

実施回数 2回 参加者数 延べ 473人

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするために、閉館後の時間帯に、星空の生解説を含め、魅力的なテーマを設定した投映を行った。職員でテーマに合わせた映像や参加型の企画を準備し、来館者が、より星空に親しめる内容にした。更に、希望者には屋外で星空観望会も実施した。

実施回数 4回 参加者数 延べ 727人

(4) スターフェスティバル

多目的ホールを利用して、来館者を対象に、「空を見上げてみよう!プロジェクト in 宮崎」をテーマに星空やロケットロードの見あげ方などのパネルの展示に加え、ロケット打上げ音響体験、全天周ドームシアター、塗り絵コーナーなど体験型ブースも設置した。天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらえるよう努めた。また、ワークショップなどを行い、宇宙への興味・関心を高めてもらう良いきっかけとなった。

実施回数 1回(17日間) 参加者数 延べ 5,522人

(5) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子ども達の情操教育を目的として、幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを毎月、実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投映し、動画等の映像による演出することで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらうように努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 894人

(6) キッズ・プラネタリウム

子育て世代のプラネタリウム利用と、子育て支援を目的として、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが楽しめる内容で星や星座の紹介を行った。

実施回数 6回 参加者数 延べ 780人

6 イベント事業

(1) 主催事業

①こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育所を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行った。また、招待した園児には手作りのこいのぼりをプレゼントした。

開催期日 平成30年 4月13日(金)
入場者数 子ども 42人、大人 23人 計 65人

②「科学と遊ぼう!こどもの日」

全館を無料開放し、こどもの日にちなんだ多彩な催しを実施した。

開催期日 平成30年 5月 5日(土・祝)
入場者数 延べ 3,528人

③地球を守ろう環境展(第10回)

地球環境についての興味・関心を高めてもらうために、「第18回 JQA 地球環境世界児童画コンテスト優秀作品」を50点展示に加え、科学技術映像祭入選作品「NNN ドキュメント17 プラス4℃の世界」を上映した。また、みやざきエコの会及び当館職員によるワークショップ行うことで充実した内容になった。

開催期日 企画展 平成30年 6月 2日(土)～ 6月23日(土)
ワークショップ 平成30年6月9日(土)、10日(日)、17日(日)
入場者数 子ども 325人、大人 533人 延べ 858人

④第59回科学技術映像祭入選作品上映会

日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選6作品を上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。

開催期日 平成30年 6月 2日(土)～ 8月26日(日)
入場者数 延べ 38,098人

⑤スペシャルサイエンスショー+（プラス）

子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、全国各地でサイエンスショーを開催している北野貴久氏を招き、「超能力科学実験」と題したサイエンスショーを開催した。

開催期日	平成30年	6月24日（日）	
入場者数	子ども	166人、大人	171人
			計 337人

⑥南極パネル展及び南極の氷贈呈式実験ショー

南極にまつわるパネル展示や、南極クラスを開催し、南極の講話及び氷贈呈式を行った。また、当館の職員による南極の氷を使った実験ショーを実施した。

開催期日	パネル展	平成30年	6月30日（土）～	7月16日（月・祝）
	贈呈式	平成30年	7月15日（日）	
入場者数	子ども	679人、大人	1,171人	延べ 1,850人

⑦市民フォーラム

一般社団法人日本航空宇宙学会主催の流体力学講演会の第50回を記念し、市民向けの講演会を行った。

開催期日	平成30年	7月	6日（金）	
入場者数	子ども	112人、大人	93人	計 205人

⑧命の科学フェア

「なるほど！なっとく！人体の科学ゾーン」で心臓マッサージ体験や心電図検査などと、救急車の見学など体験を通した学習を計画した。命について科学の目で考える機会となった。

開催期日	平成30年	7月22日（日）	
入場者数	子ども	603人、大人	481人
			計 1,084人

⑨青少年のための科学の祭典2018宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる実験ブースの出展をし、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学および科学技術に対する関心を高める活動を実施した。

開催期日	平成30年	8月	4日（土）～	5日（日）
入場者数	延べ	3,581人		

⑩「感謝の集い 開館記念日」

開館記念日を市民にともに祝っていただくため、全館を無料開放し、工作教室など様々な取り組みにより館内を楽しんでいただいた。

開催期日	平成30年	8月	2日（木）	
入場者数	延べ	1,520人		

⑪教員のための博物館の日

教職員や大学の教育学部生、博物館関係者を対象に博学連携を目的としたワークショップを

宮崎科学技術館で行った。

開催期日	平成30年 8月 8日 (水)	
参加者数	教職員34人、保育士1人	計 31人

⑫ J S C フェスティバル&科学技術館シルバーdays

敬老の日になみ、65歳以上の方と同行された家族を対象に、全館無料開放を実施した。

開催期日	平成30年 9月15日 (土) ~ 17日 (月・祝)	
入場者数	子ども 775人、大人 920人	延べ 1,695人

⑬ 子どものための音楽会 (事務局経営戦略課事業)

乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。需要が高くたくさんの方の来場があった。

開催期日	平成30年 9月13日 (木)	
内 容	SWEET CLOVER によるフルートとハープの演奏会	
参加者数	子ども 87人、大人 92人	計 179人

⑭ 名月展

中秋の名月に合わせて、月の姿の魅力や、最新の観測で解明しつつある月の話題について、写真やパネルを使って展示をした。すでに実施した企画展等のパネルや、映像を活用し、月の話題に特化した企画展が実施できた。また、多目的ホールの有効活用の方策の一つとなった。

開催期日	平成30年 9月20日 (木) ~ 10月 7日 (日)	
入場者数	子ども 671人、大人 830人	延べ 1,501人

⑮ ナイトミュージアム

ハロウィンに合わせて、館内を夜間開館していろいろな仕掛けやクイズラリーなどを実施した。参加者には「宇宙飛行士になって隕石が衝突しそうな月を救おう!」を題材に、様々な訓練と称する体験を通して楽しんでいただいた。体験には、科学の現象や館内の展示物、プラネタリウムの映像を活用した。

開催期日	平成30年10月27日 (土)、28日 (日)	
入場者数	延べ 358人	

⑯ 平成30年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした絵画作品を展示した。小・中学生から362点の応募があり、内21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日	平成30年11月22日 (木) ~ 12月16日 (日)	
表彰式及び講演会	平成30年12月 9日 (日)	
入場者数	子ども 532人、大人 1,139人	延べ 1,671人

⑰ サイエンスカフェ (サイエンストーク)

各種イベントと関連のある科学者を招き、その開催時期に合わせて、サイエンスカフェを実施

した。科学者と市民を結ぶ活動としてカフェテリア的なゆったりとした雰囲気の中で、科学の不思議などに触れてもらった。今年度は、宇宙科学研究所より春山純一氏を招き、子どもたち向けにサイエンストークを実施した。

開催期日	平成30年12月16日（日）		
内 容	月のなぞを解く「月探査の最前線～月の洞窟に迫る！」		
会 場	宮崎科学技術館 工作室		
講 師	宇宙科学研究所 春山純一氏		
参加者数	子ども 9人、大人 41人	計	50人

⑱パブリックビューイング・ロケット打ち上げ観望会

内之浦宇宙空間観測所から打ち上げられる衛星などの打ち上げの様子や宇宙飛行士の活動を実況するインターネットの視聴および、実際の打ち上げの噴気雲の観望会を行った。

開催期日	①平成30年10月20日（土） ②平成31年 1月18日（金）		
内 容	①アリアン5号機打ち上げ観望会 ②イプシロンロケット4号機打ち上げ観望会 ③金井宇宙飛行士打ち上げパブリックビューイング		
参加者数	①子ども 11人、大人 15人 ②子ども 1人、大人 5人	計	26人 6人

⑲星空写真展

世界で撮影された星空の写真や動画の展示を行った。

開催期日	平成31年 2月 3日（日）～ 2月24日（日）
入場者数	延べ 2, 232人

⑳企画展「ネイチャー&テクノロジー展」

自然と技術の関係性を「自然模倣技術」「自然（生命）を守る技術」「自然を活かす技術」の3つの視点からご紹介する企画展を行った。

開催期日	平成31年 2月27日（水）～ 4月 7日（日）
入場者数	延べ 7, 350人

㉑アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地の活性化の取組みを支援した。

・若草通り「街市」4月			
参加者数	子ども 60人、大人 30人	延べ	90人
・若草通り「街市」8月			
参加者数	子ども 25人、大人 332人	延べ	357人
・宮崎駅 駅感謝祭			
参加者数	子ども 100人、大人 101人	延べ	201人

・未来みやざき子育て応援フェスティバル2018

参加者数 子ども 251人、大人 214人 延べ 465人

・若草通り「街市」12月

参加者数 子ども 74人、大人 145人 延べ 219人

・カーリーノアウトリーチ1月

参加者数 子ども 45人、大人 45人 延べ 90人

・カーリーノアウトリーチ2月

参加者数 子ども 43人、大人 34人 延べ 77人

・若草通り「街市」3月

参加者数 子ども 55人、大人 310人 延べ 365人

②②インターンシップ、職場体験

中学生の職場体験学習及び、高校生や宮崎市のインターンシップや社会教育実習の受入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とした。今年度は中学校12校、高等学校1校、大学生1名を受け入れた。

参加者数 延べ 30人

②③宮崎市教育委員会教職員初任者研修

宮崎市に勤務する教職員初任者に対して、教育施設を活用した事業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 平成30年11月20日（火）

参加者数 44人

②④宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

地域の科学館におけるフィールドワークを行い、学校外の関係機関と連携した理科学習を探ることを目的に施設の概要及び管理運営、展示物解説、プラネタリウム視聴を行った。

開催期日 平成30年 5月13日（日）

参加者数 14人

②⑤宮崎南高校フロンティア科課外授業

宮崎科学技術館の施設及び展示物の体験的利用を通して、天文や科学への関心を高めること、宮崎科学技術館の施設及び展示物を多様な視点で考察することから、身の回りの自然事象についての科学的な視点で考察を広げようとする態度を育てることを目的に高校生への研修を行った。

開催期日 平成30年 7月24日（火）

参加者数 85人

(2) 共催事業 () は主催者名

- | | | | | |
|--|-------|-------------------------------|------|---------------------------|
| ①火について学びながらアロマワックスパーを作ろう
(宮崎ガス株式会社宮崎支店) | 実 施 日 | 平成30年 7月14日 (土) | 入場者数 | 子ども 11人、大人 7人 計 18人 |
| ②航空教室
(航空大学校) | 実 施 日 | 平成30年 7月28日(土)、平成31年 2月 2日(土) | 入場者数 | 子ども 38人、大人 51人 延べ 89人 |
| ③宮崎地区サイエンスコンクール展
(科学夢チャレンジ事業宮崎地区実行委員会) | 実 施 日 | 平成30年 8月31日(金)～ 9月 9日(日) | 入場者数 | 子ども 208人、大人 527人 延べ 735人 |
| ④県学校発明くふう展
(宮崎県発明協会) | 実 施 日 | 平成30年10月12日(金)～ 14日(日) | 入場者数 | 子ども 258人、大人 273人 延べ 531人 |
| ⑤宮崎市中学校毛筆展
(宮崎市中学校書写部会) | 実 施 日 | 平成30年10月30日(火)～11月11日(日) | 入場者数 | 子ども 494人、大人 709人 延べ1,203人 |
| ⑥人権尊重のポスター展
(宮崎市教育委員会生涯学習課) | 実 施 日 | 平成30年12月19日(水)～ 27日(木) | 入場者数 | 子ども 226人、大人 295人 延べ 521人 |
| ⑦宮崎市中学校硬筆展
(宮崎市中学校書写部会) | 実 施 日 | 平成31年 1月16日(水)～ 27日(日) | 入場者数 | 子ども 302人、大人 501人 延べ 803人 |

宮崎市歴史資料館

【みやざき歴史文化館】

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成30年度のみやざき歴史文化館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	308日
入館者数	41,956人
1日平均入館者数	136人

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	22,334人（53.2%）
大人	19,622人（46.8%）
合計	41,956人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	37,093人（88.4%）
団体	4,863人（11.6%）
合計	41,956人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	505人（11.0%）
小学校	1,142人（24.9%）
中学校	91人（2.0%）
一般（参考）	2,846人（62.1%）
合計	4,584人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	108人（50.9%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	104人（49.1%）
合計	212人

④ 県外団体利用内訳

一般	31人（46.3%）
小学校	36人（53.7%）
中学校	0人（0%）
合計	67人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	3	67	100
四国	0	0	0
近畿	0	0	0
中国	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	3	67	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	1	11	16.4
鹿児島	2	56	83.6
沖縄	0	0	0
合計	3	67	100

2 常設展示事業

宮崎の考古・歴史、民俗・民俗芸能、神話、民具等に関する資料を展示し、見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土を理解する場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 企画展『歴史文化館のあゆみ展』

平成29年度に行った各種体験学習や本館を訪れた小学校等の説明や体験活動等の様子をパネルで紹介した。

開催期日 平成30年 4月14日(土)～ 6月 3日(日)
入場者数 延べ 8,718人

(2) 夏の企画展『絵とカタチでれきし再発見!』

子ども達に宮崎市域の歴史や民俗にまつわる資料や事象について、絵と形にポイントを絞って展示・紹介することで、気軽に郷土の歴史を学ぶことのできる機会を提供し、歴史や民俗に対する理解や関心を深める場とした。

開催期日 平成30年 7月21日(土)～ 9月 2日(日)
入場者数 延べ 8,003人

(3) 秋の企画展『絵はがきの世界』

様々なジャンルの絵はがきを展示し、絵はがきから読み取れる情報を紐解くことで、当時の世情や歴史に興味をもっていただく機会とした。

開催期日 平成30年10月20日(土)～12月 9日(日)
入場者数 延べ 5,879人

(4) 企画展『文化財ウォッチング』

市民の皆様に向けて、まだあまり知られていない文化財(石造物などを中心に)を写真やパネルとして紹介し、在野の資料の存在とその意味を知っていただく機会とした。

開催期日 平成31年 2月16日(土)～ 3月24日(日)
入場者数 延べ 3,365人

(5) 企画展『歴史館のひな祭り展』

当館に寄贈されたひな人形やひな祭りに関する資料を展示し、多くの市民の方々に鑑賞していただく機会とした。

開催期日 平成31年 3月 2日(土)～ 3月10日(日)
入場者数 延べ 785人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 講座

①宮崎の歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、歴史研究家の方々を講師として実施した。

実施回数 5回
参加者数 延べ 120人

②古文書講座

元みやざき歴史文化館ボランティア会員等4名を講師として、『漂流歸國物語』・『宮崎騒動覚書』・『嘉永六年六月 浦賀奉行支配与力等より聞書』・『貝原養生訓』の解読演習を行った。

実施回数 16回
参加者数 延べ 406人

(2) 史跡探訪会

県内の史跡や建造物等の文化財を訪ね、それぞれの文化財に対する理解と関心を深めるとともに、文化財への愛護意識を啓発する目的で実施した。

【1回目・2回目】都城方面の史跡めぐり

開催期日 ①平成30年 9月15日(土) ②平成30年10月27日(土)
見学地 日州寺柱番所跡、興玉神社、今町一里塚、今町駅跡鉄道公園、横一の田の神
豊幡神社(山久院跡)、大島畠田遺跡
講師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 ① 20人 ② 16人

【3回目・4回目】日南方面の史跡めぐり

開催期日 ③平成30年11月17日(土) ④平成31年 3月 9日(土)
見学地 鵜戸の磨崖仏・八丁坂(鵜戸神宮境内)、駒宮神社、駒つなぎ松の跡、田ノ
上八幡神社、榎原神社
講師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 ③ 17人 ④ 18人

(3) 体験学習

サツマイモの栽培・収穫等の農耕体験学習や昔の人々の暮らしと関連した「竹を使ったおもちゃ作り」等の製作体験学習を行うもので、子どもと保護者、一般の参加者を対象に実施した。

農耕体験学習 実施回数 3回
参加者数 延べ 70人
製作体験学習 実施回数 22回
参加者数 延べ 603人

(4) 学校教育との連携

学校教育において体験学習が重視される中で、当館でも学校教育への支援活動を行った。主なものは、隣接する住吉南小学校「歴史文化体験クラブ」が当館を利用しての体験学習(全5回)や、教育委員会の助成制度等を利用した当館見学等(延べ19校)があった。見学の際は「横穴墓」の見学や「昔の道具」「厩屋」などの展示説明等も行った。

5 イベント事業

(1) こどもの日イベント

鎧・兜の試着、紙兜作り、鯉のぼり作り、まが玉作り、竹とんぼ・鶯笛作り、史跡公園ウォークラリー、野点ほか多数のイベントを実施した。

開催期日	平成30年 5月 3日(木・祝) ~ 5月 5日(土・祝)
参加者数	延べ 4,147人

(2) 夏休みイベント

① 「史跡公園 生き物採集教室」

開催期日	平成30年 7月14日(土)
内 容	蓮ヶ池史跡公園をめぐりながら、昆虫などの生き物を採集
参加者数	42人

② 「魚のつかみ取り」(2回)

開催期日	①平成30年 7月29日(日) ②平成30年 8月19日(日)
内 容	館の前にプールを設置し、アユのつかみ取りを実施
参加者数	①100人 ②100人

③ 「夏休みの楽しい工作」

開催期日	平成30年 8月 3日(金)
内 容	御朱印帳づくり
参加者数	2人

(3) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日	平成30年11月21日(水)
内 容	和楽器
演 奏 者	THE☆花まる・につぼん
参加者数	子ども 34人 大人 28人 計 64人

6 資料収集、調査・研究

(1) 資料収集について公共施設を中心に情報提供を呼びかける広報を行い、市民より歴史・民俗資料1件(宮崎市細江公民館文書)の寄託があった。

(2) 資料管理方法について調査・研究を行い、報告をまとめた。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成30年度の宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の適切な管理運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	146日
入館者数	13,686人
1日平均入館者数	94人

(2) 利用内訳

①入館者数（小人・大人）内訳

小人	3,151人（23.0%）
大人	10,535人（77.0%）
合計	13,686人

②入館者数（個人・団体）内訳

個人	12,032人（87.9%）
団体	1,654人（12.1%）
合計	13,686人

③県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	448人（41.3%）
小学校	451人（41.5%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	187人（17.2%）
合計	1,086人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	35人（16.2%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	181人（83.8%）
合計	216人

④県外団体利用内訳

一般	352人（100%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
合計	352人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	6	203	57.7
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	1	29	8.2
中部	5	83	23.6
関東	2	37	10.5
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	14	352	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	16	7.9
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	5	187	92.1
沖縄	0	0	0
合計	6	203	100

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに想像復元した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元で伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

(2) 商家資料館 旧阪本家

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」、明治 38（1905）年築重層入母屋造（平入）（市指定有形文化財・市景観重要建造物）を資料館として、1 階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2 階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「佐土原の民芸工芸品展」

宮崎県の伝統工芸に指定されている神代独楽、久峰うずら車、佐土原人形を中心に佐土原の民芸品・工芸品の展示を行った。県指定の伝統工芸品については製作工程をパネルと実際に使用した道具等を用いて紹介をした。

開催期日 平成 30 年 5 月 15 日（火）～ 6 月 14 日（木）
入場者数 延べ 5, 352 人

(2) 企画展「戦国時代の佐土原」

戦国時代の佐土原の武将、伊東義祐・島津家久・島津豊久の三人を取り上げ、彼らと佐土原の関わりを現在も残る文化財とともに紹介した。三人の武将は他県との関わりも深く、大阪府・鹿児島県・岐阜県にも残る資料についてもパネル展示で紹介した。

開催期日 平成 30 年 10 月 20 日（土）～ 12 月 9 日（日）
入場者数 延べ 1, 565 人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び城跡の自然環境を活用し、昔のくらしと文

化にまつわる体験学習を、子どもとその保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

実施回数 8回 (8講座)

参加者数 延べ 131人

5 イベント事業

(1) 佐土原くじら子どもまつり (共催事業)

宮崎市佐土原城の駅いろは館 (NPO 法人ドンと佐土原まちおこし隊運営) が平成27年に開館したのを機に、いろは館と共催で子どもを対象にイベントを行った。市内外の集客を図り地元佐土原を発信しながら当館のPRに努めた。

開催期日 平成30年 5月 3日 (木・祝) ~ 5月 5日 (土・祝)

参加者数 延べ 365人

(2) 佐土原花しょうぶまつり (共催事業)

佐土原花しょうぶまつり実行委員会との共催で、鶴松館裏庭の花しょうぶ園で第14回花しょうぶまつりを実施した。花しょうぶ園付近にて開会行事を行い、また野点・大正琴の演奏・コーラス等を実施し、隣接する鶴松館では地元の音楽愛好家による楽器の演奏や唱歌等を行い、佐土原城の駅においては軽トラ市等を実施し集客を図った。

開催期日 平成30年 6月 2日 (土) ~ 3日 (日)

参加者数 延べ 4,209人

(3) 神代独楽回し大会

江戸時代から佐土原藩の下級武士の内職として作られ、端午の節句の贈答品として伝えられてきた神代独楽を使ったこま回し大会を開催した。佐土原伝統的工芸品保存会協力のもと、児童の部と一般の部に分けて、こまが回っている時間を競い、優勝者に賞品を贈った。

開催期日 平成31年 1月 6日 (日)

参加者数 28人

(4) 子どものための音楽会 (事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 平成30年 5月16日 (水)

内 容 POPS (ピアノ・歌)

演 奏 者 永吉 愛

参加者数 子ども18人、大人19人 計37人

6 資料収集、調査・研究

(1) 資料収集

市民より旧国鉄妻線記念乗車券や佐土原藩に関する資料等、計6点 (旧国鉄妻線記念乗車券他) の寄贈・寄託を受けた。

(2) 資料調査

旧佐土原藩士家の文書等の歴史資料の調査を数回実施した。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、平成30年度の宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行うとともに施設の維持管理及び展示物等の確実な保存、保管を行うため、保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	138日
入館者数	16,585人
1日平均入館者数	120人

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	7,405人（44.6%）
大人	9,180人（55.4%）
合計	16,585人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	13,297人（80.2%）
団体	3,288人（19.8%）
合計	16,585人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	2,855人（89.6%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	330人（10.4%）
合計	3,185人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	103人（100%）
中学校	0人（0%）
合計	103人

④ 県外団体利用内訳

小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	0人（0%）
合計	0人

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の生活ぶりや薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを資料や映像などの展示を通して紹介している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「高岡の指定文化財展」

高岡町を高岡・穆佐・去川にエリア分けをして、それぞれに所在する文化財について紹介した。さらに、高岡の町並み体験やクイズラリー等も併せて実施し、高岡をの文化財をPRした。

開催期日 平成30年 3月15日(木)～ 4月14日(土)

入場者数 延べ 2, 365人(4月1日～4月14日の集計)

(2) 開館25周年企画展「谷村計介～地方から見た西南戦争～」

高岡と同じく関外4ヶ郷のひとつである倉岡出身の谷村計介の生涯と西南戦争について紹介した。併せて、西南戦争当時の軍事用品・生活用品等も公開した。

開催期日 平成31年3月15日(金)～ 4月14日(日)

入場者数 延べ 4, 492人(3月15日～3月31日の集計)

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

伝統的なおもちゃを中心とした製作や草木染め、芋ほり、かまど炊飯、ミニ門松作りなどの体験学習を行うもので、主に宮崎市近郊在住の子どもとその保護者を対象に実施した。

実施回数 全7回 参加者数 延べ 213人

(2) 授業支援事業「くらしを支えた昔の道具」

資料館に収蔵している昔の道具を活用し、小学校の社会科における「変わってきた人びとのくらし」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対 象 宮崎市、綾町、国富町内の小学校

方 法 事前に学校へカタログを配布し、申し込みのあった学校に道具を運搬して、当方の管理下で道具の活用を支援した。授業においては、古い道具を見たり触れたりする見学体験活動を十分行ったのち、児童の質問に応じて、道具についての解説を行った。

実施回数 全27回実施

参加者数 延べ 2, 271人

5 イベント事業

(1) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日	平成31年 3月19日（火）
内 容	童謡など
演 奏 者	G G K i n g s
参加者数	子ども31人、大人28人 計59人

(2) イベント 「秋はしっとり天ヶ城」

秋の紅葉の時期にあわせ、野点やクイズラリー等のイベントを実施した。管内では、高岡町域の歴史や民俗にふれていただき、多くの方々にご来館いただいた。

開催期日	平成30年11月23日（金・祝）
内 容	野点、クイズラリー、昔の遊び
参加者数	358人

6 資料収集、調査・研究

歴史・民俗資料を中心とした資料1点（防空鉄帽）の寄贈があった。

大淀川学習館

1 管理運営事業

平成29年度から3か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	307日
入館者数	195,241人
1日平均入館者数	636人

※ 台風接近による臨時休館 1日間

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	107,483人（55.1%）
大人	87,758人（44.9%）
合計	195,241人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	175,067人（89.7%）
団体	20,174人（10.3%）
合計	195,241人

③ 県内団体利用内訳

・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育所	6,237人（61.1%）
小学校	3,895人（38.2%）
中学校	0人（0.0%）
高等学校	19人（0.2%）
大学・短期大学	26人（0.3%）
特別支援学校	23人（0.2%）
合計	10,200人

・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育所	420人（16.4%）
小学校	2,016人（79.0%）
中学校	67人（2.6%）
高等学校	0人（0.0%）
大学・短期大学	0人（0.0%）
特別支援学校	50人（2.0%）
合計	2,553人

・ 一般団体

医療・福祉	3,071人（41.4%）
教育	1,381人（18.6%）
その他	2,969人（40.0%）
合計	7,421人

④ 県外団体利用内訳

小人	147人（69.3%）
大人	65人（30.7%）
合計	212人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	6	212	100.0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	6	212	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	20	9.43
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	1	41	19.34
大分	0	0	0
鹿児島	4	151	71.23
沖縄	0	0	0
合計	6	212	100.0

2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、虫眼鏡や顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行った。

動画解説を見たり、パソコンや展示機器を操作したり、通路の壁面で大淀川に関するクイズを楽しんだりすることで、常時、大淀川等について学ぶことができる展示を維持した。

(2) 生体展示

① 自然楽習園

自然楽習園では、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、平成30年度は、年間5, 213頭を放蝶することで、常時50～100頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。また、学習効果を高めるために、解説板を設置した。

② 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広くそろえ、子どもの興味や視線の高さ等に配慮して、随時、配置換えを行った。

③ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。宮崎市環境保全課や宮崎市内の各地区ホタル保存会と連携・協力を図りながら、ホタルビオトープ水槽等を活用して館内羽化率向上に取り組み、平成30年度は、83頭のホタルを羽化させることに成功した。

(3) 企画展示

① 特別企画展 「水の生き物と仲良くなろう！ザリガニ展」

内 容 子どもたちが、水に親しむ遊びの文化を体験的に理解するため、身近に体験する機会や場所が少なくなりつつあるザリガニ釣りを体験できるプールを設置し

た。また、生命尊重や環境保全意識の向上、在来種と外来種に関する正しい知識の普及を図るため、青や白など、特殊な色のアメリカザリガニを展示し興味関心を高めつつ、パネルやミニ講座等による解説を行った。

開催期日 平成30年 4月 7日(土)～ 6月10日(日)
入場者数 延べ 44,392人

- ② 特別企画展 「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」
内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシへ直に触れることができる会場を設けた。また、生態系維持の重要性や在来種と外来種に関する正しい知識の普及啓発を図るため、外国産の生体も同一会場内に展示し、パネルやミニ講座等による解説を行った。

開催期日 平成30年 6月30日(土)～ 9月17日(月・祝)
入場者数 延べ 74,858人

- ③ 企画展 「よく見てみよう！ちょっぴりこわい生き物展」
内 容 命の尊さや新たな発見の喜びを感じて、生物の多様性を理解するため、一般的に嫌悪されがちなへびやゴキブリ等を展示し、観察する機会を設けた。

開催期日 平成30年 9月22日(土)～10月28日(日)
入場者数 延べ 14,948人

- ④ 特別企画展 「水の生き物と仲良くなろう！ガラ・ルファフィッシュ体験」
内 容 生物の多様性や生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、特設プールにおいて、ガラ・ルファに自らの角質を食べさせて、観察ができるようにし、パネル等で解説を行った。

開催期日 平成30年9月29日(土)～11月4日(日)
入場者数 延べ 13,277人

- ⑤ 企画展 「ちっちゃい生き物 大たんけん展」
内 容 身近な生き物への興味・関心を高めるために、紫外線撮影やマクロ撮影した肉眼では見ることが難しい昆虫の体の仕組み等について、写真パネルを設置した。

開催期日 平成30年11月10日(土)～12月9日(日)
入場者数 延べ 10,192人

- ⑥ 企画展 「県産材積み木で遊ぼう！」
内 容 身近な素材のよさを体感しつつ、家族や友達と創造力を働かせ、コミュニケーションをとりながら作業をする良さを体験する場として、宮崎県産材製の「からから積み木」を約20,000個準備し、自由に作業できる会場を設けた。

開催期日 平成30年12月26日(水)～平成31年 3月24日(日)
入場者数 延べ 29,324人

- ⑦ 企画展 「幸せかもん！カメカメ展」
内 容 ことわざや慣用句などにも用いられ、生活になじみの深いカメと人とのつながりについて考える契機をつくるために、生体展示ホールに特設コーナーを設け、

一カ所で多種多様なカメを観察することができるようにした。

開催期日 平成31年 1月 4日（金）～ 1月27日（日）
入場者数 延べ 8, 247人

⑧ 企画展 「カラー魚拓への誘い」

内 容 生物の観察に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、魚の色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓を、地元愛好家の協力を得て展示した。

開催期日 平成31年 1月12日（土）～ 2月11日（月・祝）
入場者数 延べ 11, 158人

⑨ 企画展 「春一番！ひな山展」

内 容 大淀川流域の民俗文化への興味・関心を高めるために、大淀川清流域の綾町で育まれた「ひな山」をエントランスホールに展示した。

開催期日 平成31年 2月 2日（土）～ 3月 3日（日）
入場者数 延べ 12, 981人

⑩ 企画展 「大淀川のお散歩パネル展」

内 容 豊かな自然や文化を育み、歴史を重ねてきた大淀川流域への興味や関心を高め、新たな気づきや郷土のよさを再発見する機会を設けるため、石碑や建物、風景等の写真パネルを展示した。

開催期日 平成31年 2月14日（木）～ 3月24日（日）
入場者数 延べ 14, 810人

（４）作品募集と展示

① 作品展 第18回 大淀川流域の写真展

内 容 郷土のよさを知り、郷土を愛する心を育むために、写真撮影を通した、大淀川流域の身近な自然や文化財等を見つめ直す機会を設け、他者の視点から見た気づきを理解するために、募集した写真を展示した。

応募数 557点
開催期日 平成30年 9月15日（土）～ 9月30日（日）
入場者数 延べ 8, 109人

② 作品展 第24回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展

内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品を展示した。

応募数 2, 319点
開催期日 平成30年10月 6日（土）～ 11月11日（日）
入場者数 延べ 15, 676人

（５）川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、6本のオリジナル番組（A 大淀川の自然を訪ねて、B 大淀川の水と生き物たち、C 大淀川の生い立ちと生き物、D

母なる川～大淀川～ E 大淀川水辺のおさんぽ F 大淀川の虫たち)を立体ハイビジョンにて上映した。

上映回数 1, 7 3 3回

観覧人数 延べ 3 4, 8 9 8人

① 定常上映

平日は一日5回、土日祝日及び小中学校の夏季休業期間は一日6回、定時に上映した。

② 特別上映

団体の来館時間に応じて、また、都合がつく限り番組も調整して上映した。

(6) 里山^{がっこう}の楽校

古来より、人は、里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にする心を育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、教室事業等において活用を図った。また、小学校向けの学習支援に利用する地層コーナーや、自然学習園を維持するために必要な第2食草園についても一体的に管理している。

3 学校対応事業

学校、幼稚園等の教育課程に沿った支援活動を行うことによって、教育効果を高めることを目的として実施した。

(1) 授業支援

対 象 小学校等

実施回数 1 5回

参加者数 延べ 1, 5 1 1人

内 容 チョウの生態や地層等の学習について、本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

(2) 指導者支援

対 象 小・中学校教諭等

実施回数 3回

参加者数 延べ 2 2人

内 容 チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、講義や演習を行った。

(3) 子ども会・PTA支援

対 象 子ども会やPTA関係者等

実施回数 1 0回

参加者数 延べ 4 6 3人

内 容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を行った。

(4) 出前授業等

対 象 児童館や地域づくり協議会等

実施回数 1 5回

参加者数	延べ 1, 338人
内 容	植物を使ったものづくりや野外活動・生き物の講座を行った。また、子育て応援フェスティバルでの出前講座も行った。

4 教室事業

自然に対しての興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象	小学生以上
実施回数	3回（※「川の生き物で水質調査」は、雨天により中止）
参加者数	延べ 61人
内 容	「ホタル環境調査」「自由研究にぴったり！下水処理場見学会」「大淀川水質環境パックテスト」を行った。

(2) 飼育・観察教室

対 象	小学生以上
実施回数	4回（※「バスで行くオオムラサキ自然観察会」は、雨天により中止）
参加者数	延べ 110人
内 容	「メダカの飼育・観察教室」「明りに集まる昆虫観察会」「カブトムシ・クワガタムシの飼育教室」「水辺の生きもの観察会」を行った。

(3) 活動教室

対 象	小学生以上
実施回数	4回（※「ミツバチのハチミツを採取しよう！」は、雨天により中止）
参加者数	延べ 174人
内 容	「アユの稚魚放流しよう！」「ハーブティーを楽しもう！」「シイタケの駒打ちをしよう！」「食べられる野草さがしてみよう！」を行った。

(4) ものづくり教室

対 象	小学生以上
実施回数	8回
参加者数	延べ 231人
内 容	「昆虫標本を作ろう！」「植物標本を作ろう！」「貝殻で工作しよう！」「植物でウェルカムボードを作ろう！」「野鳥の巣箱を作ろう！」「まっぼっくりでクリスマスツリーを作ろう！」「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう！」「カラー魚拓を制作しよう！」を行った。

(5) 園児教室

対 象	幼稚園や保育園、子ども園等の園児
実施回数	27回
参加者数	延べ 1, 347人
内 容	生体を見たり触れたりする活動や簡単な工作活動、県産材を使った積み木体験を行った。

5 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として行った。

(1) 季節のイベント

対 象	全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）
実施回数	11回
参加者数	延べ 822人
内 容	「水辺の楽校！植物の名前当てに挑戦しよう！」「ミニ釣り大会」「カブトムシの幼虫を育てよう」「カブトムシ・クワガタムシのクイズ大会」「カブトムシの木登り大会」「クワガタムシのすもう大会」「メダカすくい大会」「アユのつかみどり大会」「ふれあいもちつき大会」「昆虫輪投げ大会」「大淀川学習館クイズ」を行った。

(2) ふれあいウィークエンド

対 象	全来館者
実施回数	37回
参加者数	延べ 1,648人
内 容	「紙コップで工作しよう（2回）」「ミニ鯉のぼりを作ろう（2回）」「新聞紙でかぶと飾りを作ろう（2回）」「針金アメンボを浮かせよう（2回）」「紙コップでゲコゲコガエルを作ろう（3回）」「折り紙で水族館をつくろう（3回）」「七夕飾りを作ろう」「カブトムシを捕まえて育ててみよう」「紙コップで鳴きセミをつくろう」「カブトムシ・クワガタムシの折り紙（3回）」「カブトムシ・クワガタムシの切り紙（3回）」「バランストンボを作ろう（2回）」「木の実であそぼう」「タネ模型を飛ばそう」「お正月飾りを作ろう」「カブトムシの幼虫を大きく育てる方法を知ろう」「ワクワク折り紙（3回）」「節分飾りを作ろう」「折り紙でひな人形づくり（3回）」「紙コップで鳥のおもちゃを作ろう」を行った。

(3) 講演会

対 象	全来館者
実施回数	1回
参加者数	29人
内 容	低年齢層の利用者増に対応して、子育て世代向けの講話「子育てに活かせる心理学～大淀川学習館における自然とのふれあいを通して～」を行った。

6 その他の事業

(1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育園等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応じて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

来館学校

幼稚園	73団体	延べ来館者	3,099人
保育園	97団体	延べ来館者	2,542人
幼保連携型認定こども園	41団体	延べ来館者	1,019人
小学校	86団体	延べ来館者	5,911人
中学校	5団体	延べ来館者	77人
高等学校	2団体	延べ来館者	19人
特別支援学校・大学・短大	7団体	延べ来館者	101人
合 計	311団体	延べ来館者	12,768人

(2) カブトムシの幼虫プレゼント(宮崎科学技術館との連携)

宮崎科学技術館のこどもの日無料開館に合わせ、科学技術館の受付にて「カブトムシの幼虫プレゼントチケット」を配布し、翌日、大淀川学習館にチケットを持参した子どもにカブトムシの幼虫(館にて採卵又は採集の後、飼育したもの)をプレゼントした。

開催期日 平成30年 5月 6日(日)

参加者数 子ども28人

(3) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

期 日 平成31年 1月25日(金)

内 容 乳幼児向けにプログラムされたリトミックやリズム体操を主体とした音楽会を開催した。

参加者数 子ども 71人、大人 65人 計 136人

(4) 各種関係団体との連携 ()内は団体等の名称

①アユの稚魚を放流しよう 実施日 平成30年 5月12日(土)

(宮崎県内水面振興センター) 入場者数 子ども 31人、大人 27人、計 58人

②ホタル環境教室 実施日 平成30年 5月26日(土)

(市環境保全課・市内各ホテル保存会) 入場者数 子ども 18人、大人 17人、計 35人

※ 但し、雨天のため屋内にて実施

③バスで行くオオムラサキ自然観察会 実施日 平成30年 6月30日(土)

(宮崎昆虫同好会) 入場者数 雨天のため中止

④明りに集まる昆虫観察会 実施日 平成30年 7月14日(土)

(宮崎昆虫同好会) 入場者数 子ども 19人、大人 21人、計 40人

⑤自由研究にぴったり!下水処理場見学 実施日 平成30年 7月31日(火)

(宮崎市上下水道局:宮崎処理場) 入場者数 子ども 10人、大人 8人、計 18人

⑥ふれあいもちつき大会 実施日 平成30年12月22日(土)

(水源地団地自治会) 入場者数 子ども 36人、大人 60人、計 96人

⑦カラー魚拓を制作しよう 実施日 平成31年 2月11日(月・祝)

(色彩魚拓画会) 入場者数 子ども 2人、大人 6人、計 8人

⑧しいたけの種駒打ちをしよう 実施日 平成31年 3月 3日(日)

(宮崎中央森林組合) 入場者数 子ども26人、大人35人、計61人

(5) 情報提供と広報活動

ICT(情報通信技術)を積極的に活用し、SNS(ブログ、フェイスブック)を用いた情報提供や広報活動を行った。

また、宮崎県初記録等の生体については、マスメディアに対して、随時情報提供を行った。

宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

平成30年度は、当協会が宮崎市民プラザの指定管理者として再指定を受けて最終年度となる。管理運営については「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針を定め、利用者サービス向上による利用者増対策に重点的に取り組むとともに、利用者が安全・快適に利用できるよう施設の管理運営を行った。

(1) 利用状況

開館日数	308日
入館者数	248,072人
1日平均入館者数	805人

(2) 利用内訳

・ ホール	入場者数	64,940人	(利用率 81.99%)
・ ギャラリー	入場者数	47,349人	(利用率 94.81%)
・ 練習室①	入場者数	14,835人	(利用率 87.01%)
・ 練習室②	入場者数	4,894人	(利用率 95.13%)
・ 大会議室	入場者数	20,747人	(利用率 94.81%)
・ 中会議室	入場者数	9,810人	(利用率 95.45%)
・ 小会議室①	入場者数	6,364人	(利用率 97.73%)
・ 小会議室②	入場者数	5,466人	(利用率 96.42%)
・ 和室	入場者数	5,671人	(利用率 94.48%)
・ 学習室	入場者数	6,057人	(利用率 89.29%)
・ プレイルーム/授乳室	入場者数	328人	
・ カフェクレーン	入場者数	6,168人	
・ エントランス	入場者数	8,608人	
・ 市民活動センター	入場者数	32,942人	
・ 団体室	入場者数	5,232人	
・ ホール打合せ	入場者数	529人	
・ ギャラリー打合せ	入場者数	144人	
・ 窓口受付	受付人数	7,695人	
・ 視察者等	59団体	293人	
	合計	248,072人	

2 自主事業

自主事業については、「創造・制作事業の実施」「普及・育成事業の実施」「鑑賞事業の実施」の3つの取組方針のもと、地元で活躍するアーティストを起用したテーマコンサートを継続事業として実施。また、本県出身の著名なアーティストのリサイタルや、子どもやファミリーを対象としたネイチャーフォトグラファーによるエンターテインメントスライドショーを新規事業として実施した。さらに、平成27年度に実施し、好評を得た子ども向け文化芸術教室の「コドモチャレンジスクール」に再び取り組み、普及育成を図った。

(1) 企画推進委員会の実施状況

第1回	平成30年11月28日(水)	宮崎市民プラザ 練習室1
	(1) 平成30年度宮崎市民プラザ自主事業上半期の実施状況について	
	(2) 平成31年度宮崎市民プラザ自主事業計画(案)について	
第2回	平成31年3月27日(水)	宮崎市民プラザ 学習室
	(1) 平成30年度宮崎市民プラザ自主事業下半期の実施状況について	
	(2) 平成31年度宮崎市民プラザ自主事業計画について	

(2) 自主事業実績

	事業名・出演者等	開催日・場所等	入場料等	入場者数
1	第12回 市民プラザコンサート ～POWER OF VOICE～ 【出演】 JARNZΩ(ジャーンズ)、Whoopin(ウーピン)&Miyazaki Gospel Choir(宮崎ゴスペルクワイア)、monoU(モノユー)、Pastel Clock(パステルクロック)	平成30年9月2日(日) オルブライトホール	予約席チケット 1,200円 一般席チケット 前売1,000円 (当日1,200円)	283人
2	第24回 宮崎・音のスケッチブック ～おさんぽらいぶとマルシェ～ 【出演】 い～な♪、あんべらしゅう、チャルネイロ、 宮崎日本大学中学高等学校吹奏楽部	平成30年10月21日(日) 橘公園噴水広場	無料	214人
3	市民プラザ寄席 「志の輔・歌春二人会」	落語教室(アウトリーチ) 平成30年7月10日(火) 西池小学校 楳北小学校	無料	164人 106人
	【出演】 立川志の輔、桂歌春、林家花、立川志の大	平成30年11月18日(日) オルブライトホール	指定/3,000円 (当日3,600円) 一般/2,000円 (当日2,400円) 学生/1,000円 (当日1,200円)	464人
4	松本紀生アラスカ・フォトライブ 【講師】 松本紀生	平成30年12月24日(月・祝) オルブライトホール	おとな券/500円 (当日600円) ※おとな券購入1枚につき こども券(未就学児～中学生) 2枚まで無料配付	407人
5	カウンターテナー藤木大地リサイタル	アウトリーチ 平成31年2月22日(金) 宮崎県立こども療育センター	無料	60人
	【出演】 藤木大地、鈴木優人	平成31年2月23日(土) オルブライトホール	予約席チケット 3,000円 自由席一般/2,500円 (当日3,000円) 自由席学生/1,000円 (当日1,200円)	438人

6	コドモチャレンジスクール2018 【講師】 (落語クラス) 桂 歌春 (Oh!!笑いクラス) 嫁恐竜、チキンナンゴー	体験ワークショップ (Oh!!笑いクラス) 平成30年11月10日(土) 練習室1	無料	10人
		スクール (落語クラス) 9月～3月 (Oh!!笑いクラス) 1月～3月 練習室ほか	(落語クラス) 受講料 18,000 円 (Oh!!笑いクラス) 受講料 200 円／回	4人 19人
		発表会 平成31年3月24日(日) オルブライトホール	無料	237人
		入場者数 合計		

3 その他の事業

子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催日時	平成30年7月10日(火)	10:30～11:10
内 容	「音もだち」による演奏	
演 奏 者	Vo.甲斐千尋 Gt.日高勝久 Fl.中山千佳子 Pf.今屋早紀子	
参加者数	子ども156人、大人163人	計 319人